

広報ただみ診療所

診療所の「医療安全活動」について

～安全な医療を受けていただくためのお願い

朝日診療所
看護師長

馬場トシ子



今年4月より朝日診療所の看護師長を務めております馬場トシ子です。

早いもので半年が過ぎましたが、ご挨拶が遅れてしまい申し訳ありませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しておりますが、医師やスタッフの皆さんに支えられながら、感染症対策やワクチン接種などにも取り組んでおります。日々責務の重さを感じておりますが、精一杯努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、今回は私から朝日診療所の「医療安全活動」についてお話ししたいと思います。この言葉になじみのない方が多いかもしれませんが、医療に従事する全ての職員が患者さんの安全を最優先とし、その実現のために行う組織活動のことです。

まず医療安全活動は、患者さんを正しく認識することから始まります。違う名前を呼ばれても、聞き間違いや思い込みで自分だと思ってしまう、診察室や検査室に別の患者さんが入ってくる場合があります。

また、医療安全活動には患者さんの協力も求められています。例えば、入院中にリストバンドを装着するようお願いしたり、誤認防止のためにお名前を名乗っていただくことなども実はこの活動の一環となります。診察に来るといろいろな場面で名前を聞かれ、「看護師に聞かれたのに、今度は検査の人にも……何回も聞かれてわずらわしい」と感じると思います。しかし、患者さんの安全を守るための活動ですので是非ご協力お願いいたします。

今後、皆さまからの「こんなヒヤッとしたことがあったけど……」といった声も大事にしていきたいと思えます。外来待合室とトイレ前に『意見箱』を設置してありますので、是非お気軽にご意見をお寄せください。

住み慣れた地域で安心して生活できるよう、多職種の方々と連携し、地域の皆さまから選ばれ、信頼される診療所となるよう努めて参りたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

地域おこし協力隊として Vol.82

「賑やかだった只見線全線開通50周年の一日」

只見町
観光振興協力隊

よこやま よしみ
横山 儀巳



8月29日の晴れた日曜日の只見駅前には、只見線全線開通50周年を祝う沢山の人が溢れていました。久しぶりに見る賑わいは、やはり街に活気をもたらします。未だその日は決まっていなかったものの、来年の只見線全線再開通の日は、50年前の5千人には及ばないかもしれませんが、町民始め全国から鉄道ファンなどが集まり、50年前の全線開通日を彷彿させる大賑わいが見られることでしょう！今から楽しみです！！そして、復旧に関わってくださった方々に一町民として感謝したいと思います。

自分自身も鉄道ファン（主に乗り鉄）ですが、身近にあった只見線は最も愛着のある路線です。中学生だった50年前は小旗を振って列車を迎えたのを覚えています。中学卒業を機に只見を離れたのが只見駅、帰省の度に小出から只見線に乗り、円形校舎を横に見ながら降り立ったのも只見駅だったことが蘇ります。若い頃は上野発の上越線夜行急行で小出に降り立ち、只見線の始発で帰ってきたことも思い出されます。

2011年の新潟福島豪雨に伴う被災前の只見線は、乗降客数が減少傾向ではあったものの、「紅葉が美しい鉄道路線」や「雪景色のきれいなローカル線」など、鉄道路線に関するアンケートで常に上位にランキングされ、「ローカル線の横綱」とも呼ばれて高い支持と愛好者の多い鉄道路線でしたが、今でも第一只見川橋梁などのビュースポットに多数の観光客が訪れる人気路線です。

そんなローカル線の完全復活劇は、全国のみならずSNSで認知度が高まった海外からも注目の的です。1番列車の到着は全国ニュースにもなるのではと想像されます。そして、その1番列車やSLが第八只見川橋梁や叶津川橋梁を走る雄姿を想像すると胸が高鳴ります。

現在、地域おこし協力隊として全線再開通を見据えた「駅前賑わい創出事業」の手伝いをさせていただいていますが、駅前の賑わいも“復活”できるよう少しでも力になればと思っています。